



誹諧師傳 全

享和二歲
六月



先の題より簡くす

其ノ題ノ姿ヲシテ能ク見定テ勺ヲ考ヘシ碎言ハ驚鳴
時初ラ乱カス閑ニ啼出スヤウハ天子ノ御前ニ何ノ
中ニ上ル姿ナルヘシ見定メテ

嘗の奏内申一初音ハ

又蝶ノ島廻ハ姿ヲイフ

一遍ニ廻マシテ胡蝶ハ

先ツ発ウラセシ思ウ中何ニテモ其題トモ物ノ本情ヲ
能見定ヘシ其見立ノ心ハ凡姿アリ其セキヲ結ハル
情有ヘシ凡姿ハ情一ツモ内テハ発ウニテ是ニ
用様アリ碎言ハ獲葉ノ比ハ凡情ヲ表トシテ凡
姿ヲ裏トセリ今流行ニテ之時ハ南野ハ沈陸貞

行草ニ命ズル内ニテハ草ノ中ノ草ノ姿ヲルヘシハ娑ヲ表ニシラ
凡情ヲ表ニ作ナリハ凡情ハモノ又一句ノ情ハ石曰
一石ノ姿ハ成ホト甚深ニカヨシ句數多シハ引句ニ石
及但凡姿ハ情ノ句ヲ引カハ

繼母ノ白イ顔カラ雉子ノ声
松ノ家ニ赤科トヤ雉子ノ声 一石ノ姿有

凡ムイノ木ニ火傳將ノ火煙我 三ハ娑句ノ
景情モアトテヤカニ 火煙我 三ハ娑句ノ
附合差別ノ在
是ハ前ニ能見定ラ作ナリ碎言ニ
凡娑數句ヲユニ置テリハ句ニハ句也ノ出聲

ナリ、見定ラセナリ作リテ附ヘナリ

叙カメハミノリコニ 凡娑數ナリ、アヲハ又參
宮ノモノナリヲ句作りテ宜カヘシト見定ラシキ
男女ノ參宮ノ模様ヲ附ナリ又

通ラ又烟筒烟草ノ奉リナリ、アヲハ通ラ
此ハノ喜ヲ付テ宿形カ又ハキモノナリヲ付テ宜シカ
道具鳥、虱、草、木、ア、ハ、石、情、非、情、共ニ見定ラシ
其本情ナキモノハアヲ久碎言ニハ日鶴ニハ
随分暑中ニナリ唐丸ハ足長ウシテ涼ニキモノナリ
アヲハ暑サノ涼ナラシクハ句ニ 暑ヲ鶴ノ
分行ニ連（杯ノ附）時ハ自然ニ暑情ハニ句ナリ
以境ハ常任ノ詠ニ其物ヲ詠ニ其情ヲ又ニシ

かりて人の衆の外の凡雅をアへて去其附多の虚を
有、其込に理居に九虚に一切の附本原の
附へのては姿のみならず正凡体、居其ノ境ニアリ
其ニ居テ虚ニ抱フてドナリ所をも是に曰に理居の

トナリノ壁ノ形を然るにその
アリくを新積下工以出

アリくを新積下工以出

け三の凡何の何は先初メの、其の壁ノ形ノ
其の壁ニキリくスノ鳴止云々其初ノ其ノ形ノ
其ノ壁ニ又中ノ白ノ壁ノ形ノ其ノ形ノ其ノ形ノ
鳴テ居るに虚ニテ一切附スナリ其ノ形ノ其ノ形ノ

白ヲ請テ鳴出シテ其出テ其ニカ有ナリ鳴出ス其言ノ
言居ナリ一踏壁ノ形ノ其ニ鳴止云々其初ノ其ノ形ノ
少壁ニ其形ノ其ニ又以出シ其ノ形ノ其ノ形ノ下ヨリノ有
其ニ又ノ其入テ白ニ其形ノ其ニ其虚ニ其ノ境ノ附
ナリ其の限へカラス其ノ形ノ其ノ形ノ其ノ形ノ其ノ形ノ

其白賊物之其

其目ニ其ナリハ連歌賊物ノ其ニ是ニ略マ但排借ノ
賊物有増ヲ云ハ免角其其白ノ其ニ其ニ其ニ其ニ其ニ
其白ニ其物ナキ其ハ其ニ其用ニ其其其其其其其其
白ヲ取ヘナリ賊物常ノ排借ニ其取テ其其其其其其
ヨリテ取テ其其其其其其其其其其其其其其其其其

日ノ入ノ其吹拂ノ花標 是其其其

取入竟句ノカケ合相心ナリ免ヲ付レシ皆ク是ニ准ス

賦何竹笠

字や筆数ニ定テ一ノ字ハ取入

一ノ字露題

香ニ白ハリニ垢界ノ桜花 是ハ香略取

二ノ字通音

花ノ面々如長虫衣花サナナ場主也 是ハ通音

三ノ字中略

際上ケテアキ子日や桃ノ花

是ハ三ノ字統テ取レ
中ノ字ヲ抜テ取レ

四字上下略

野鳥ノ啼や君象ノ部屋住居

是ハ四ノ字ノ内
上ヲ略スナリ

一字添付

宝蓋ノ白明シテ青キ沃田哉

是ハ其句ノ中文字ニ
冠ヲ添テ外ノ字ニ作

一字除篇

風ノ所ニ入ヤ跡賣

是ハ其句ノ中ノ字ノ筆
外ノ字ニ作替ナリ

字ノ筆ヲ取テ去ル取ナリ
有ナリ者其句ニ取物ナキ
スルヲ三ハ望石成是轉句ナリ

俳諧表卷各三五

百韻

七十二候

但行ノ字道師傳是ハ

源氏ヲ表ス

卒韻

四十四

歌仙

首尾

表ハハク

一各編伊氏

本式ノ表

表十句ナリ但カク定ニ表首濃カ加ニテ以雅ノ達人

十人集テ表有シ時何ニ表ノハハフクナクナシハ以時知
十句表始ナリ又ヨリ本式誦禱大方十句ヲ用ハハ句ニ
スル一有ヨシナリ於各目ニ有ナリ

表十句 内古入名 但古人ノ名云在現在

松風サハハ吹上ノ濱 ナハハハ右口傳

名残ノ表六句月 西ニ一ハ

花 是ハ書遠カカク

其外本式ノ座ノ模様不及筆紙各目ニ
見ニ有ク多々想祝儀ノ祈禱等定本
式ノ用ニハシ

素春日素秋心得之文

アヤカキニ好テスル一ニアラスカドモ花ヲ生ク申出
時春ナラハ梅ノ葉ノ重キモノ秋ナラハ扇ノ葉ノ
重キモノ類々其ノ葉ノ内ノ方重キモノニテ素春素
秋有ヘシ是至極ノ傳ク

梅ノ花ノ用ニ

望ミハ一葉ノ内ニ正花若何ノモ知孰モ有時
ルナリタリ

素春ノ花ノ名根ニ

如是出ル名根ニ咲ノ草花ノ様ニテ正花若定
カタニサハハ花ヲ指テハ花ノ内ノ賞題トモ難ク
押ハルルハ正花トモ正花ナラハ此定カナリカク有ハ

暖ハ臍ノ柳成

治定

春柳ハウカモト思ふ

治学

大根下ノカモト思ふ

治学ハカモト思ふ

累ナカ

思ふハカ

治学

思ふハカ

治学

此ノ差ハカモト思ふ

此ノ差ハカモト思ふ

此ノ差ハカモト思ふ

一ハタノ字ニ通フナリ現在ハタノ字ニ通シト切ナリ未ダモ日前ナリ左ニ依テ現キハ切字ナリ去クハ切ナク

二段切ノ事

二段切ハ切字ナリトシラニ段ニ切人ク切字ニ有

三有トテモ二段切三段切ト云ク

梅名葉菊ノ高アリ

梅ノ名葉菊ノ高アリ

三段切ノ事

思ハカモト思ふ

眼ノ名葉菊ノ高アリ

ハ段切ハ切字ニ有

余情所七もまの事よ、山部多にわかス下其字子ハ口、
却銀事^{ヨロシキ}空物ハナシ、イフ、意味^ハナリ、
イハレ、
去るる向へ、
ノ二、ハ、ア、ア、ス

ヤ、
大や、
子^ノ鳥、

ハ、
孰、
お出、
を^レ回、

青^リテ、
蓬^葉、

向、
又^青リ、
若、
青^リテ、

大^廻、

大、
世、
ち^だ、
族^の、

乃、
音^道、
音^道、

善^相、
奉^紙、
祝^儀、
祈^禱、

右四句共ニ発句編イタニ方曰前也先奉押
卷十九八

松梅を今野亦山の御影外

・水と月日を歌に 首集

此是吉通連声ノ也ヤ若宮社ニ与テ外島宛
句中ニテモ奉取有時ハ上ノ五文字ノ切其れニ吉通
是吉ノ入キナリ中ニ七文字下ノ其文字ハ其ノ大為吉
不若又宛句ヲ吉通ニ見先時若中ノ句其れを吉
通人方名也其時ハ其句ノ爲リノ字ト吉通可有
又若ニ宛句ヲ切中ハ其出句ヲ宛句ノ切字
不入編ノ心持ヲ吉通ニ見先時若中ノ句其れを吉
九句ニ入キナリ句宛編ハ其想ノ南人作キナリ

經句ノ若想中ハ長句作ナリ又ヲ宛句ノ心ヲ持テ
伴編ノ心ヲニテ爲字ハ其ノ切テ爲ラシメ成
へし其切ノ句編体四句目振ニ入へし其切ノ句
平生ノ事ニテ切テ爲ラシメ成ラシメ成
成へし其切ノ句爲ラシメ成ラシメ成
如常ニ社ニ不食

又由爲のり

大市四の目有るニ通ラナリニ通ラナリニ通ラナリ
碇言ハ流石修又由ト有ハ由上ニ十里隔テ其れ
又由ハ其れ一ノ句ノ疑有テ爲ラシメ成
りリスツ又ラムニ又由爲の撰(多ナリ)大ナリ疑ニハ
ナシ碇言ハ 句ハ乃山ニ 野危 堀又由

白ノ山ニ野老場と見テ又見定難キ程ノ幽大疑有也
終路幽見ニ云ハ佳者多由三千里隔テ見ヤリ之急心前ノ日

綿之事

立體

後撰 赤源

長足

頃刻

体立

白ハ石目ニ有

白クヤノ事

素白切字ヤ敷クアコ昔早疑ニ定定ニツヤ
花ヤ敷ハ先ハ七ヤハ疑ニ十昔早ノシツメ先ハ
定定ナリ昔野ヤハみよしのハ向ナリ定定ニ先
ヤナハ我ノ事ナリ疑ノヤハ我ノ事ナリ
素白綿ノ事ニ位ニ事
以三ノ段ノ位ニ素白十段綿ノ事ニ位ニ事

体

年白七段 素白三段 綿ノ事ニ位ニ事
素白三段ニ事 綿ノ事ニ位ニ事
素白三段ニ事 綿ノ事ニ位ニ事
素白三段ニ事 綿ノ事ニ位ニ事

物事也ヤ 係也 物入 凡ノ事

以燃入ノ二字ニ事素白也燃入ハ先ニ句ノ骨有位ニ事
ヨリ十段ノ事ニハ平均ニ七段ノ事ニハ眼ヲ付ヘニ事
為ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事
十事ナリ之ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事
ハモノノ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事
以テ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事
ナリ其ノ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事
蕉翁更一代ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事

ニテノ儀ナリ究白ノ十位ニ三位トキ、右外ラハハ
出替をわすり、類字交

ありあの平白ナリ下ニ三位有今外ハ取出しナリ
十位ナリけ境究白ニ三位中、おきならとつあき
究白かあつ、類ニ 月三ニテあし事

平生外あ中三ナリあむさしあ成

あまの浮哉。白の 〇〇 浮く 中あ

白ひし 治まし 〇〇 田 牙之毛 浮きし 又

定ニテニ也アハナリ

中くく 漕舟 船の 途ヨリ 浮く

冬 白乃 第ニ 朔夜 抽 味 浮り 又 此 定

柚味 常ニ 浮く 左ニ びく 定ニテ 左ニ びく 浮り 又 此 定

表ハ白之事

天 起 究 白

天ハ空成ヲ以テ秋ハ 功 差一人 究白ヲ望ムヤ也
ヲ 誦テ 空ヨリニ 趣 向ヲ 後ニ 是 本 第一 知 ひきまうし 十 十 久
天地 由カサハ 始テ 信ノ 定ニテ 又ナハ 形ナリ

地 靖 暘

地ノ 秋 先ノ 天ヲ 裁物 而 翔ヤ 天地 和合 ナキ 時ハ 人
ヲ 立 産 妻 又 不 成ヤ 又 子 中 回ニテ 十 七 字ノ 代ヲ 示ス 故ニ
類 向 十 七 字 中 久 久 年 中 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各
各
仕和 又

人 轉 月三

人ハ 冥ノ 長ナリ 天地ヨリ 生シテ ソノ 天地ノ 内ニ 乃 是 久

故ナリ物ノ場ナシニ随命物シテ附人ナリ地ノ母ノ秋ナリ又ヨリ
生ズク又三十八歳ニ至ル夫ハ徳分ノ体ノ通ラズ又物ニ至ルナク

仁合 廿四

人生ヲ行フヘキ一ノ五常ノ外ツキス仁秋表々ハキ一ツクス
トス尋常輕クスルツ四句目フリク先入ツク
ヨリ身ヲ之ニ抱クトシテ九句物一ノキキヤラズ
其我身ヲ又之ニテ上ヲ致セ下ヲ量ルハ之道ノナリ
ナラズハ初マノ後ナリ

義 廿五

義ハ心ヲ正リ遊ジテ窮ナク又秋ナリ又三ニ揮流ハ信有
在ナリ作者ハ之ニ賛ムハ平白ニ十段ナリ三ニ平白ニ
七段又ニ流テノ宗道ノワケ一ノ九ノ宗道ノ格
二任テヨシ

禮 廿六

礼ハ仁ノ秋ニテ前信ノ考見合スルノ一ノア人ナリ
是ニ初マノ後ナリ

智 廿七

智ハ心分器量ヲ出シテ一平極アハ句ヲスレ
是ニ初マノ秋ナリトテ切名ノ地ナリ

信 廿八

信ハ心アリテ本ナリ表物ナレハ前ノ七句ニ
障クテ表ノ所ヲ知ルルニ交ラツクトスレハ
表全句法ニ事

古事ナリ在ニ事ニ表合ニ一表ノ所尾ハ句ニ事ニハ
故神祖秋教ノ意ニ事ニ事ナリ其物合セトハ

雁民 深以の二より三より名目

真 真に畢意寄物之秋と秋之うを心の上と懸て女と有る

雅 雅に流水如こ只後朴こして多楽専保取の多

是に又時をこのちのり

頌 頌ハ天子松ヲユリウリ

推頌ハ 頌頌ノツタツ

頌頌ハ 下歳年入に自出及らるる

安ん

右云義ノ名目ニ委細マツル

一陽ヲ記

所 情 比 粘 乞

尚流附方五七條

喜向う移りて夕立乃風

平々る侍石を寄と流行の場

村ノ十斗樽をたしち

皆々始て書りし日の秋

ハ羽の孔をこもくは年

初居の能の時分ちの侍

灯の上よりあはれからつ

冬末琵琶をとりけり

影の又向ふ金羽を吹

大なる内へを

八侍附方口傳

白 響 侍 寄 志 秘 具 入

輪のそよぶの公此ちめらひやう
雲のうきよきしめり響の陰影山
衣のぬりぬるゝ山かぬもよか
ふむ十し何ふと己の世を
降つと志せぬぬをつまて
原ゆめりけぬ又やうとせし
鶴の十二の鶴を踏むを
あふしとて鶴を踏むを
何をもえぬはしとて鶴を
むと散らさるゝ念の夜を
かたのつらさやとてつらさ
形知のつらさやとてつらさ
け下丑二を乙とてつらさ
形知のつらさやとてつらさ

やう

つと合に皆上戸よして若ら
さしとてつらさやとてつらさ

八体句作

午乃乃花白園子柳のおもひ腰
柳陰園まゝお下はた句て

昔道業ありとてや伊留乃初役

古名は戸かてんへキライセよ上五字
こまかサリ神代ノコエツリびと二十

かこつとあり南峰のけよは戸のな
キコエマナリ

晴朝の生雲くまると雲し魚の柳

しお朝乃をくまると雲し魚の柳
そよよとてつらさやとてつらさ

句 寄 伊 寄

秘

志

見入

見立

本記して茶摘とまじや母多
不^レいさ此の比ちや摘のゆ信かりたへ

福妻又怪しぬ人のたれとさよ

人^二又^一ア^レ一人^二に^一福妻^レ知^ラツ^レテ^レア^レ又^二福妻^一知^ラツ^レテ^レア^レ又^二福妻^一知^ラツ^レテ^レア^レ又^二福妻^一知^ラツ^レテ^レア^レ

館の西を鏡おろす^レの頃

キコ^レリ

己か火をまとの野ヤ^レの者

ヲコ^レリ

訛語文字之類

并ニ能信和歌宛之事

秘傳

向云能信能信信事^二相^一違^レ毛^レ何^レカ^レ又^レ答^云能信

毛^レ能^レ用^レ先^レナ^レ戯^レ撮^レ也^レ字^レ心^レ史^レ記^レ滑^レ暫^レ傳

等皆能^レ用^レ貴^レ之^レ言^レ篇^二書^一琴^レ然^レナ^レ元^レ捕^レ乃

傳ハ^二多^一稱^レ又^レ要^レ能^レハ^レイ^レノ^レ音^レナ^レシ^レヒ^レ音^レ能^レ也

心ナ^レリ人^レノ^レ音^レ家^レ上^レノ^レ凡^レ能^レカ^レハ^レ思^レ也^レナ^レノ^レ書^レ琴

事^レイ^レカ^レニ^レ名^レ能^レの^レ知^レ非^レス^レ名^レ事^レハ^レ非^レ常^レト^レ相^レニ^レ非^レ異^レ

ナ^レ凡^レ知^レク^レ也^レナ^レ之^レ轉^レ傳^レ又^レ向^レ然^レハ^レ能^レハ^レハ^レイ^レノ^レ音^レ有^レテ

能^レハ^レハ^レイ^レノ^レ音^レナ^レシ^レイ^レカ^レニ^レ音^レ是^レ之^レ云^レ能^レハ^レ唐^レノ^レ字^レナ^レリ^レ日本

不用^レ日本^レニ^レ能^レノ^レ字^レナ^レリ^レ始^レテ^レ作^レテ^レマ^レヒ^レナ^レリ^レハ^レイ^レノ^レ讀^レス^レハ^レク

又^レ向^レ貴^レ之^レ臣^レノ^レ名^レノ^レ作^レ人^レノ^レ有^レカ^レラ^レス^レイ^レカ^レニ^レ云^レリ^レ延^レ亮^レ帝^レノ

二心三心ノ名別ニ行合スルハ時中ニ見ル是相妙
傳ノ想メケテ一見ノ内ニ一字ニテ他言他意有ヘカ
聖ク神クヘシ

藤ノ本情ヲ見ルニ用ス

是ハ藤ノ本情ヲ見ルニ用スヤカニ長クノ同キ先
免知事ノ以テテ和奇ニ遊シテ其ニ至
鞆ノモ流ル

牡丹杜ノ本情ヲ見ルニ用ス

牡丹杜ノ本情ヲ見ルニ用スヤカニ長クノ同キ先
免知事ノ以テテ和奇ニ遊シテ其ニ至
鞆ノモ流ル

暑ク夏ノ姿有ハナリ杜若ハ水田ニ咲テ石ヤナリノ類ヲ
有ハ是ニ本情夏ニカニナリ去ニ依ラニ花舞ニ用ハナリ
向チラハ和奇ニハナリヤ云奇者ヨリ春ニ
後来リテ奇ノ姿ニ集テ物ヲ後人是ヲ夏ニ遊スルカ
メキニ昔ヨリノ格ヲ以テ春ニ後ハナリ遊シハ是ヨリ昔
産人令改テ遊ヨリ杜ノ花取ルノ風春ニ松聲ノ花
三解詩ナリニモアト畢竟相類ノト格取ルノ花ニ
舞テハ是ニ以テ夏ニ用スル想体一ノ夕ノ姿ハニモ
附テモ是ヨリ花ノ本情ヲ後来リテ之ナリ折ノ
花鶴ノヒト鳴スルハ和奇ノ姿自ニ遊スル

趣向取柄事

趣向ハ題ノトハアラズ月雪花時鳥ニヒルノ趣向

合テ発白一言半ハ十八人ノ守ニ侍ニハ又所見ヲ合テ奇
ニ花実相応ヲ本ノス連能モ是ニヒリシカレハ唯花
月ニ然レハカラス人情ノ教誨ヲ知んヘシ

人所定

口傳

句作ノ多

本ノ規矩ニ執ハユノセハニ有り句ノ成勢天コシニ同シ
先一物ヲ生シテコソ切瑳シ句ト細筆キハ句ノ余情ニ残
死命別ノ場ヲテ作んヘシ

新ク又ハカレノ筆ヤルル取川
櫻多捨テハハぬ筆ヤ谷在若山
四書目ヨカレノ筆ヤ一の句

一二三ニテ練ル

口傳

附左ノ一

所句身ハ前句ニイリクノ附カヨリ習フヘシ附カヨリ
知ラハお越ノ輪廻三句ノワチリヲ心得テ變化
ハカヒテ知んヘシ

前句ニ踏込場

江村の古口をわがけのうらむら
雪浪又そらへ返るをうら

能場

盗み母ノ形ミシモル
敵素のちこむかまのりき
千眼一玉場

二階くまのりかゆ中り地

さしきつ又仕切と海肥前船

以上

爰白のり

無念想ノ申ニ物ヲ生え見ラ爰白のり廿八番ニ
上ノ下ノ有ラシノ心カラ陰陽ヲ備ヘルモナリ
此等ニ連ニ切字ナリテハ爰白ニアラズ縦切字
アリテ又オサノ字カニナリテ切字白モアノナリハ
切字ノ御キ專一ナリハ

切字ノ

先達向各俗定十八ノ切字ヲ定メ置シヨリ種
々ノ切字アリハ其格ヲ背リカラスモ切字ニナ
ル至ノ習アリハ習ナリテハナカラス又切字ナリテモ

切字アリハ傳受ナリハイハシモ切字アリハ

切字ノ子続反反

書続反反

歸し反

賜ハ爰白ヲ請持ツ心ナリ又定ノ字ノ心ナリを實
主ノ格多クナリハ

オニノ

オニノ一轉ノ増ナリコトニテ切ノモナリイハシモテ為然ハ
指合アラハシモナシニ為ニモ有ヘシモ字又外ノ
テニハニテ為ナリ傳受ナリテハスヘカズ縦傳受不
レモ十百額カ子句ノ外ハ大々用捨スヘシ

四句目ノ

麻マ終マカ

四句目ノイハシモ輕クスヘシ然レハ尖前生徒ノ法ノイハシモ有リ

夏ニ海方字の心ナシハ一白ノ年物ナリテ有ヘカラテ

月夜ノ一

月夜ハ沈雅ノ音聲ナシハ夕ケ高リシラ音ナリク
如クヘカラスモ初申終ノ差別又後田ノ差別ナリ得ヘ

以上

正親白之文

正親白之文又相面ノ以傳

立アタレ格そのう山の言葉ニシテ

よらり

如代詞ノ縁ツリク正親白ノイウク奇ニ親ノ
差別有ク

アイウエヲ 以テラ音通ハ 撲ラ音通

五音奇相通ニハ一也

アウヤウカエラナニカケル音ハ二ハ底ノ輕重

豊新音通

不王ニ廟神ト云

おれ乃にけしと彫やをぬりて

いふのさやまこししめ

むつ

又アウヨリカニノ双也如クツリハク是ラ音通
声ノ格也

伊勢神法系

何ツ本ノ音も知レハ

親白

サナ相通

神法果 善惡 賢 婚 泪 足 暇 徒 後

以外祝儀先下二右ノ三格ニテスヘシ祭白由ニテニ
三物ニテ又一卷成記ノニテニ日新ナリ石一巻
中ハ翠白ノ流ノ假名ヨリ電白及ノ右ノ格ニテハ久シ

求善 求悼 して

追善

白雲ニ在事稀ク 何カ
言事ノ新又ケナリ 松ノ野

追悼

短歌ヤラキ 晴野ノ地 残り
松在我ノ心ノ数トテ一七日

追福作善ノ悼ノノ差別ス又ニテニテ作善ハナリハ初物
美ニテ其心持んへシ又ハ残ノ先 翠白ハ月ヲ新ハ初物

松林ニ鳥ノ声アリ 松ノ音
右ノ

右一卷者尾品若古屋住
月空庵主露路川先生有
傳受也漫不可有他見
口訣之書

活竟軒

波末又
本飛波至

木

野木

野木

石明

石志

桃波

桃山

石山房

桃山

石山房

桃山

桃波

得亦